

希少な魚「イトヨ」の生息調査！！

イトヨは、背中に3本のトゲがあり、一年中水温が安定している湧水環境に生息する魚です。繁殖期は春で、雄は鮮やかな婚姻色を身にまといます。水草や藻などで巣を造り、雄が卵を守り育てる習性があります。小さなエビの仲間や水生昆虫を食べる肉食性です。イトヨには、サケのように海に下る降海型と、一生を淡水域で過ごす



陸封型がいます。北海道や東北地方のイトヨの多くは降海型で、大きさが8 cmほどであるのに対し、栃木県に生息するイトヨは陸封型で、大きさが4~5cmと小型であるのが大きな特徴です。この陸封型のイトヨの生息地は、全国的に見ても少なく、栃木県および大田原市の天然記念物に指定されています。



平成27年12月11日、大田原市南部に位置するイトヨ生息地（以下、南部生息地）と同市北部のおかんじち川生息地で、各生息地のイトヨ保存会、大田原市文化振興課の方々と共同でイトヨの生息調査を実施しました。その結果、南部生息地では383尾、おかんじち川生息地では81尾と昨年と同程度の生息が確認されました。また、当年生まれとみられる大きさ3cm前後のイトヨは、南部生息地で全体の5割、おかんじち川生息地で3割と順調に繁殖していることも確認されました。今後も、希少なイトヨを守っていくために、継続的に調査を実施します。

